脊髄造影検査用パンフレットの不安軽減の有効性の検討

キーワード：脊髄造影検査・不安・パンフレット

1 病棟 7 階西
周布絵美里　稲富悠　本田一雄　松岡恵理　中谷優子　後藤直美

Ⅰ．はじめに

A 病院整形外科病棟には、入院患者の約 5 割が脊椎及び脊髄疾患の精密検査目的で入院している。これらの疾患の診断には脊髄造影検査が必要であり[1)]、年間約 280 例の脊髄造影検査を行っている。脊髄造影検査は、検査前日に医師が同意書を用いて 10 分程度口頭で説明し、同意を得た後に検査を行っている。

A 病院整形外科病棟には検査説明のマニュアルがなく、看護師による統一した説明は行っておらず、検査前の患者からは、「どこに針を刺すの」「検査はどれくらい時間がかかるの」「検査の後は全く動けないの」という質問や「怖いわね」という不安の声が聞かれていた。このことより、患者は検査に対する理解が十分ではなく、検査に対する不安が大きいと考えられた。

藤岡ら[2)]は、検査内容の理解が不安の軽減につながり、パンフレットによる説明で、検査に対する理解が向上したと述べている。そこで、脊髄造影検査の内容や注意点を記したパンフレットを作成し説明を行うことで、患者の理解が高まり、不安が軽減するのではないかと考え、研究に取り組んだ。

Ⅱ．研究目的

脊髄造影検査前に、看護師がパンフレットを用いて説明を行うことが、脊髄造影検査に対する患者の理解度の向上と不安の軽減に有効であるかを検証することを本研究の目的とする。

Ⅲ．研究方法

1．研究期間：平成 24 年 7 月～11 月

2．対象：A 病院整形外科病棟において平成 24 年 8 月 1 日～9 月 30 日に脊髄造影検査を受けた患者で意識清明かつ意思疎通や意思表明ができ、担当医の許可が得られた患者のうち研究趣旨に同意の得られた患者 20 名

3．方法

1）脊髄造影検査の同日に患者にパンフレット（図 1）を用いて検査に関する説明を行う。

2）脊髄造影検査の翌日、安静が解除された後に、パンフレットによる説明を受けたことで検査に対する不安が軽減したかアンケート（図 2）を行う。

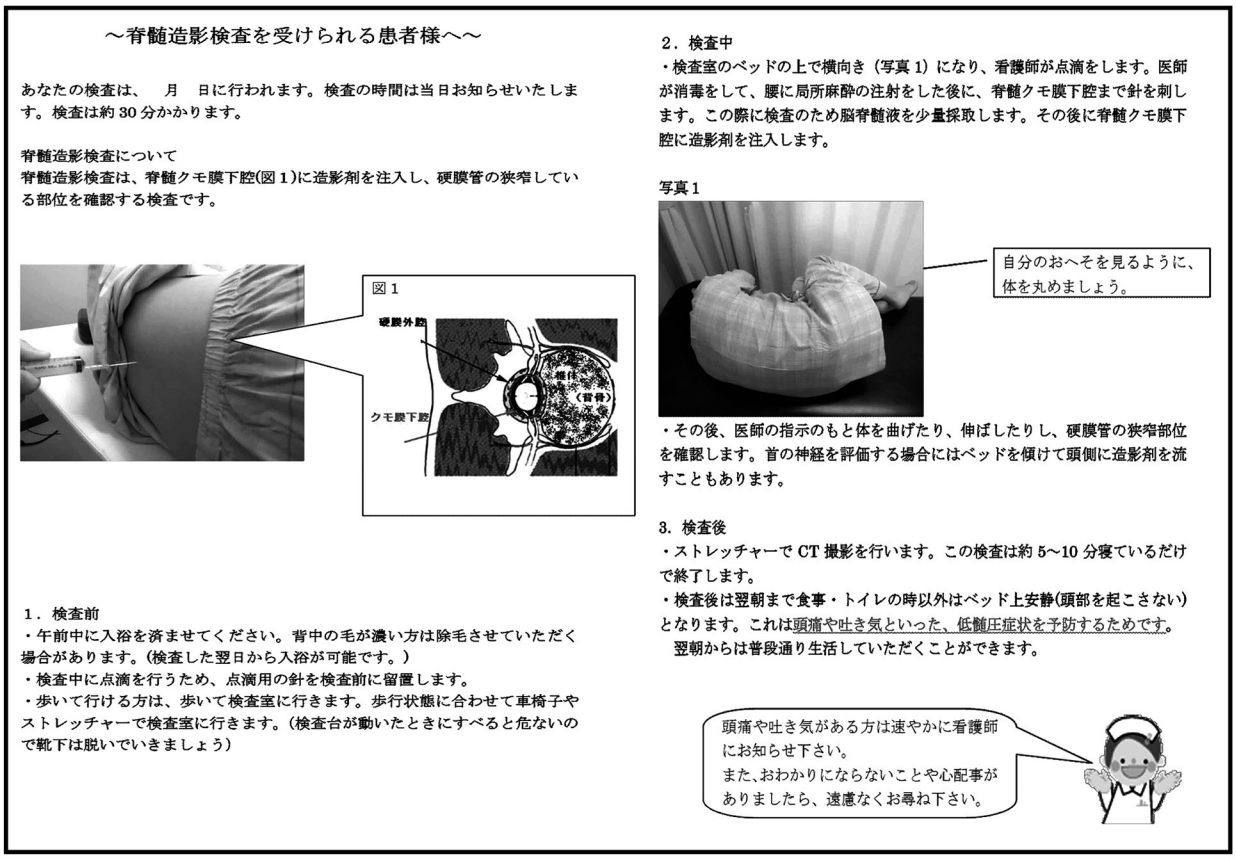
3）アンケートを回収し Excel2010 を用いて、基本統計量を算出し、単純集計を行う。

4．本研究における用語の定義

脊髄造影検査（ミエログラフィ）：脊髄クモ膜下腔に造影剤を注入し、脊髄や神経根の形状を調べる方法を指す。

5．倫理的配慮

研究のために得られたデータに関する個人情報は秘密保持厳守し、研究以外に個人のデータは使用しないこと、研究中であっても中断はできることを口頭で説明し同意を得た。



～脊髄造影検査を受けられる患者様へ～

あなたの検査は、　月　日に行われます。検査の時間は当日お知らせいたします。検査は約 30 分かかります。

脊髄造影検査について
脊髄造影検査は、脊髄クモ膜下腔(図 1)に造影剤を注入し、硬膜管の狭窄している部位を確認する検査です。

図 1
硬膜外腔
クモ膜下腔
椎体
〈背骨〉
棘突起

1．検査前
・午前中に入浴を済ませてください。背中の毛が濃い方は除毛させていただく場合があります。(検査した翌日から入浴が可能です。)
・検査中に点滴を行うため、点滴用の針を検査前に留置します。
・歩いて行ける方は、歩いて検査室に行きます。歩行状態に合わせて車椅子やストレッチャーで検査室に行きます。(検査台が動いたときにすべると危ないので靴下は脱いでいきましょう)

2．検査中
・検査室のベッドの上で横向き（写真 1）になり、看護師が点滴をします。医師が消毒をして、腰に局所麻酔の注射をした後に、脊髄クモ膜下腔まで針を刺します。この際に検査のため脳脊髄液を少量採取します。その後に脊髄クモ膜下腔に造影剤を注入します。

写真 1
自分のおへそを見るように、体を丸めましょう。

・その後、医師の指示のもと体を曲げたり、伸ばしたりし、硬膜管の狭窄部位を確認します。首の神経を評価する場合にはベッドを傾けて頭側に造影剤を流すこともあります。

3．検査後
・ストレッチャーで CT 撮影を行います。この検査は約 5～10 分寝ているだけで終了します。
・検査後は翌朝まで食事・トイレの時以外はベッド上安静(頭部を起こさない)となります。これは頭痛や吐き気といった、低髄圧症状を予防するためです。
翌朝からは普段通り生活していただくことができます。

頭痛や吐き気がある方は速やかに看護師にお知らせ下さい。
また、おわかりにならないことや心配事がありましたら、遠慮なくお尋ね下さい。

図 1．脊髄造影検査用パンフレット

Ⅳ．結果

パンフレットを用いて説明を行った対象者は 20 名で、アンケート回収率は 100%であった。

1．パンフレット使用後の検査に対する理解度

「検査前にパンフレットを使用した説明を受け、検査の内容が理解できましたか」という問いに対し、対象者全員が「よく理解できた」「理解できた」と回答した。

2．検査前の不安の内容

「検査前に不安がありましたか」という問いに対し、「有り」と答えた対象者は 13 名（65.0%）で「無し」と答えた対象者は 7 名（35.0%）であった。(図 3)

以下の問いに当てはまる番号に○印をつけてください。
問１、４についてはもっとも当てはまる気持ちに○印をつけてください。また、その理由があれば〔　〕内に理由をご記入ください。

１．検査前にパンフレットを使用した説明を受け、検査の内容が理解できましたか。

よく理解できた　理解できた　どちらでもない　あまり理解できなかった　全く理解できなかった

〔理由　　〕

２．検査前に不安がありましたか。
①はい　②いいえ

３．問２で①と答えられた方にお尋ねします。検査前にどのようなことに不安を感じていましたか。当てはまるもの全てに○印をつけてください。
①注射の痛み　②注射の部位　③造影剤が体内に入ること　④副作用（頭痛・吐き気）
⑤検査時の体位　⑥検査後の安静度　⑦その他（　　）

４．検査前にパンフレットを使用した説明を受け、検査に対する不安が軽減しましたか。

とてもそう思う　そう思う　どちらでもない　そう思わない　全くそう思わない

〔理由　　〕

５．パンフレットを用いてもっと説明してほしいことがあれば記入して下さい。
（　　）

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

図 2．検査後のアンケート

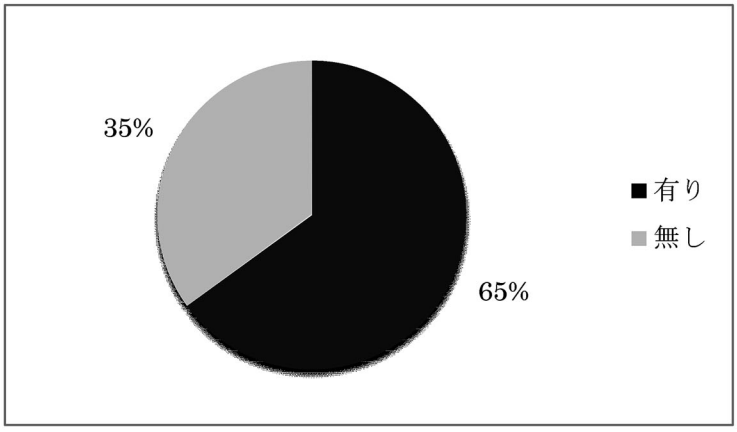


図 3．検査前の不安の有無

「有り」と答えた対象者のうち、「注射の痛み」に対して不安を感じていた対象者が 9 名（69.2%）で最も多く、次いで「副作用（頭痛・吐き気）」と回答した対象者が 7 名（53.8%）であった。（図 4）

「無し」と答えた対象者は、その理由として「過去に類似した検査を受けている」「事前に検査について調べている」「医師に全て任せている」と回答していた。

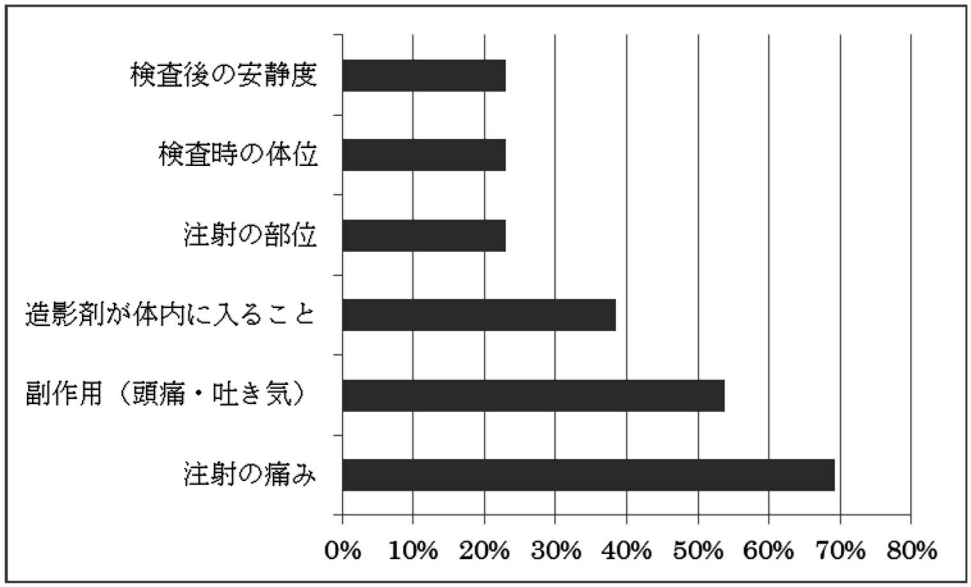


図 4．検査前の不安の内容

3．パンフレットを使用したことによる検査に対する不安の軽減

「検査前にパンフレットを使用した説明を受け、検査に対する不安が軽減しましたか」という問いに対し、「とてもそう思う」「そう思う」と答えたのは 14 名（70.0%）、「どちらでもない」と答えたのは 2 名(10.0%)、「そう思わない」「全くそう思わない」と答えたのは 4 名（20.0%）であった。(図 5)

「そう思わない」と答えた対象者は、その理由として「注射の痛みに対し不安があるので、パンフレットで説明を受けても注射への不安が減らなかった」と回答していた。「全くそう思わない」と答えた対象者は、その理由として「医師に全てまかせており、検査前に不安がなかったため」と回答していた。

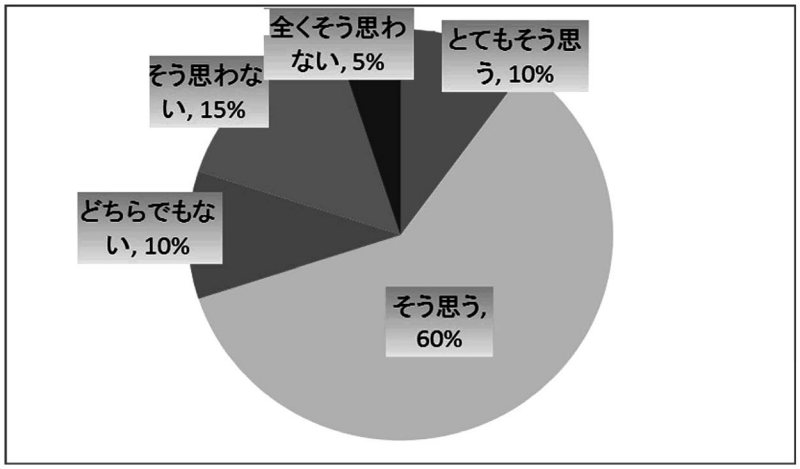


図 5．パンフレット使用後の不安の軽減

Ⅴ．考察

アンケート結果より、パンフレットを用いた説明を行ったことで、対象者全員の検査に対する理解度が向上したことが明らかになった。これは、パンフレットを用いることで、看護師の経験年数に関係なく統一した内容で説明を行うことができたことに加え、文章のみの説明だけではなく、図や写真を取り入れた説明を行ったことが、対象者全員の検査内容に対する理解を促したと考えられる。また、対象者のうち 70.0%は不安が軽減できており、検査内容を理解できたことが不安の軽減につながったと考えられる。野呂ら [3] は説明文書にとって、わかりやすいことと、患者が求める情報を十分提供することが重要であり、説明文書に求める情報が十分に書かれているとわかりやすいと感じ、わかりやすいと感じると理解度や安心感が高くなると述べている。今回作成したパンフレットは、これまでに聞かれていた患者の質問や不安の声を参考にして、対象者が容易に内容を理解できるよう作成した。それにより対象者の検査に対する理解度の向上を促し、不安を軽減することにつながったと考えられる。

検査前の不安の内容については、疼痛や副作用といった、検査を受けることで実際に身体に影響を及ぼすことへの不安が多かった。疼痛に関しては、検査前にパンフレットで説明を行っても、疼痛の程度を断定して表示することが困難であったため、対象者の注射の痛みに対する不安を軽減することができなかったと考えられる。

対象者によって不安の内容や強さも異なるため、パンフレットを基本として、個別性に応じて説明をアレンジすることが重要であり、看護師個々の疾患・検査に対する知識の向上が課題であると考えられる。

Ⅵ．結論

1. 検査前の患者にパンフレットを用いた説明を行うことで、検査に対する理解度が向上し、不安を軽減させることができた。
2. 今後はパンフレットを基本として、個別性に応じて口頭での説明内容をアレンジすることが重要であり、看護師個々の知識向上が必要である。

引用文献

1) 門田　奈保美：脊髄造影検査を受ける患者の苦痛緩和－脊髄造影時のマニュアルを討して－、看護技術 39(10)、105－108、1993

2) 藤岡　ゆみ：検査の不安に対する考察、砂川市立病院医学雑誌 17(1)、85－88、2000

3) 野呂　幾久子：インフォームド・コンセントのための説明文書に対する一般市民の理解度とわかりやすさ・安心感、医療の質・安全学会誌 2(4)、365－377、2007

参考文献

加藤　絹子：脊髄造影検査を受ける患者の看護、日本農村医学会雑誌 38(4)、974、1989

伊藤　博子；脊髄造影後の副作用予防の比較検討、第 26 回看護総合、127－129、1995